

■目的（事業：2024 東海 A 級トライアルでの現状や課題を整理し報告する）

■分析対象 東海 A 級トライアル参加者（13 名）⇒ 静岡県より（6 名）
東海の 9 枠中 4 名が通過し、2025 年度 JFA 公認 A 級養成講習会に参加

■流れおよび全体像

東海 A 級トライアルに関しては、3 月 2 日（日）口論義運動公園サッカーグラウンドにて行った。9 名の枠に 13 名が参加した。午前・午後に分けて参加者全員に対して指導実践 (TR2 と GAME) を 20 分間で実施した。

（静岡：6 名、愛知：4 名、三重：2 名、岐阜：1 名）

指導実践では、現在の B 級のトピックである①ビルドアップ②中盤の守備③中央突破④ゴール前の守備⑤サイド攻撃⑥クロスの守備の 6 つのテーマから抽選で決定した。選手役は、午前・午後ともに名古屋産業大学の選手がプレーした。大学生は強度、プレーの質も高く指導実践に協力してくれた。

■課題の発見と分析

トピックの理解からオーガナイズの設定が非常に重要となる。選手にとって簡単すぎず難しくもない横幅と人数は？50mの横幅を 3 人 or 4 人で守るのか。配球はいつも GK へ出すのか？コーチの立ち位置は？オフサイドはあるのか？副審はつけるのか？などと言った全体像から細部に至るまで指導者自身の意図を持たせたい。そして、TR2 の中ではプレーさせ、分析する中でシンクロとフリーズを活用しながら基準の提示をする。提示後はシンクロで選手のアクションをジャッジで伝える。特に TR2 での提示が甘いゲームでもフリーズする場面が増えてしまいます。クラリティとリアリティのバランスの観点からも TR2、GAME ではリアリティのある中で（5 対 5 ~ 10 対 10）位の 2 ラインまたは 3 ラインのオーガナイズで 2 つのゴールを付けるか、1 WAY の形でのオーガナイズが 20 分の指導実践では指導者も選手もやりやすいのではと感じました。東海トライアルでは、3 ラインを形成したゲームに近い TR2 をやられた方が多かった印象です。※GAME は GK を含めた 9vs9 ~ 11VS11 でのプランニング。

■トピックス

A 級トライアルに関しては、B 級→A 級である為、（サッカー全体像の理解に加え、3 人称 (OFF の選手)、攻守、切り替え) の B 級レベルをクリアされているかが評価のポイントとなる。オーガナイズの工夫、指導力としての（分析・改善・発展・個別指導・視覚化・動機付け）等を意識しながら指導実践を行う。限られた時間（20 分）でかつ緊張を伴う中での TR2→GAME になるので、指導者がトピックの理解を深めた中でサッカーをさせる。プレーを分析した中で選手に何を獲得させたいかの提示をする。その過程の中で選手自身が判断してプレーできると活性化し、20 分の中でもトレーニングが積み上がっていく。オーガナイズの意図、積み上げや逆算、人数やサイズ感などプランニングが重要であることを改めて感じたトライアルでした。また、振り返りの中では全体的に自分が伝えたいこと（準備してきたことや自身のストーリーだけが）強く出すぎてしまい、目の前で起こっている現象（原因）の中でどうしたら良くなるのか？How To をどう伝えるか？コーチングしていくかが足りない印象だったとの話がありました。

■提言（東海 A 級トライアルに向けて）

□オーガナイズの工夫（シンプルな設定、幅と深み、背後のスペース、人数、ゴール）

W-up、TR1、TR2、GAME のつながりを持たせる。トピック理解&オーガナイズ 現象を出す働き掛け

□基準を示す→提示しジャッジする・褒める・更に要求する。積み上げていく流れをつくる

良いプレーを見逃さずジャッジ（褒める・認める）することで、トレーニングが活性化される

□質（クオリティー）への追求（デモンストレーション）※東海では質の追求をされる方が少なかった

□守備・攻撃への働きかけ（裏側）優先順位の整理

※2024 年度は東海 A 級トライアルに向けたスキルアップ研修を 2 月に静岡産業大学で実施しました。全体で指導実践の振り返りを行い、トピック理解やコーチング、オーガナイズ等の理解を深めることができました。その後、各自が各地区の 47FA チューターや A 級取得者に東海トライアルまでに指導実践を見てもらう機会をつくりました。

報告者：武田 直隆（技術委員会 指導者養成委員長）

A 級コーチ養成講習会 レポート

報告者：又川 淳也（清水エスパルス SS 藤枝）

■目的（事業：2024 年度日本サッカー協会公認 A 級コーチ養成講習会 JFA コース）

アマチュアトップレベルのチーム及び選手に質の高い指導ができる人材を養成すると同時に、地域・都道府県の指導者のリーダーとなる人材を養成する。

■流れおよび全体像

前期、中期、後期と指導実戦を中心とした講習会で、自分とは違った価値観の指導者の指導を観て新たな価値観を受講生達自身が作り上げていく講習会。

プレーモデルをうつし込み、1 人ひとりに意図的な戦術行動を取らせるようにする。

■課題の発見と分析

①質の高い非改善側

・プレーモデルの落とし込みが成功しているように見えることが多かったが、それは非改善側の質が低いのが要因ということが多かった。チューターからは質の高い相手に対してプレーモデルを落とし込み、プレーが成功しているというのが前提と言われた。指導中の非改善側への働きかけだけでなく、指導案を作成する時点で非改善側の改善側のプレーモデル対策のオプション等を考えておく必要があると感じた。

②選手の納得感を得る

・プレーモデルの落とし込みというと自分がやりたいサッカーをどうしても選手に押し付けるような指導になってしまう場面が出てきてしまった。チューターからは、サッカーの原理原則や優先順位から外れないこと、そして選手が納得するように正しい現象の分析と改善をして整合性をもって指導することが大事だと学んだ。

■トピックス

- ・今年度からプレーモデルの落とし込みということが一番のテーマとなっていた。具体的なプレーモデルが 4 局面、3 ゾーン毎に明確に言語化されており、それをいかに 7 つのトピック毎に落とし込めるかが重要となっていたように思う。
- ・A 級の講習会になるとかなり自分のサッカー感を強く持った人や明確なプレーモデルを持っている人がいた。ただその中でも、自分とは違ったサッカー感やプレーモデルを持った人のことを受け入れることができるオープンマインドな指導者が前期、中期、後期を通して大きく成長したように思う。

■トピック理解

・トピックが 7 つある中でそれぞれのトピックが、どこのエリアのトピックかを正しく理解しなくてはいけないと感じた。参加者によっては、エリア理解ができておらず中盤の守備のはずが、高い位置からの守備のような現象が出てしまっていることがあった。トピック毎のエリアを正しく理解しそのエリアでの現象が出るようなメニュー、オーガナイズ、コーチングをしなくてはいけないと感じた。

■提言

・日常のトレーニングから改善側が上手くいっている場合にその原因がトレーニングによる効果なのか、非改善側の質の低さなのかを常によく観察、分析しなくてはより良いトレーニングを行うことができないと講習会を通して再認識した。その観察力を養うためには、今回のような講習会に参加し様々な指導者のサッカー感や指導基準に触れることで、自分の指導の新たな価値観を作り上げていき、観察力や指導力を高めていく必要があると感じた。また、講習会だけではなく、自分の指導現場から外へ出て様々な試合や練習を観ることで新たな価値観を作り上げることができると思う。今後は、多くの場所に赴いて学ぶという機会を作り続けていく必要があると感じた。

■コース概要

1. コース 東海コース
2. 日程 前期：6月3日(月)～6月7日(金)
中期：9月16日(月・祝)～9月20日(金)
後期：12月2日(月)～12月7日(土)
3. 会場 静岡・時之栖（裾野グラウンド）
4. チューター 石井知幸、望月聡、本吉剛、大畑開

■講習会内容

1. 指導実践（★は私が監督役で指導実践をしたトピック）

ア) トピック（前年度までは“テーマ”という呼称）

- ①高い位置からの守備★
- ②ビルドアップの改善（高い位置からの守備に対して）
- ③中盤でボールを奪う守備の改善★
- ④中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善
- ⑤リトリートした守備の改善
- ⑥リトリートした守備に対する攻撃の改善★
- ⑦カウンターアタックの改善（自陣に引き込んでから）★

イ) 内容

- ・前期：3回、中期：3回、後期：2回指導実践を行う
前期・中期は、監督・コーチ・GKコーチとして1回ずつ実践し、後期は監督として2回実践する。テーマは抽選で決定する
- ・前期は、Tr1+Tr2で25分、中期は、Tr1+Tr2+Gameで30分、後期は、Tr2+Gameで20分
- ・各トピックでのプレーモデル（前年度までは“コンセプト”という呼称）を落とし込み、選手1人1人にタスクを与える。改善側のシステムは自由。非改善側のシステムは1-4-4-2（途中で可変するのはOK）。改善側を3バックで実践する方も一定数いた

ウ) Log Book（間の学習）

前期～中期：5回、中期～後期：4回（高校生年代以上の選手で）実践する。うち2回はA級ジェネラル or S級保持者にも見てもらい、コメントをもらうが必要ある。個人的には、間の学習を充実させることが指導力（特に分析する目）を高めるために大変重要だと感じた。ここで全トピックを実践し、自分のプレーモデルの良し悪しを確認するとよい。また、様々な方に実践を見てもらい、トピックに対して多角的な捉え方を知ることができたのは収穫だった。

エ) プレゼンテーション実習

中期1回目の指導実践テーマ（私は「リトリートした守備に対する攻撃の改善」）について、自分のプレーモデルを、映像付きスライドを用いて10分以内で説明・提示する。十人十色のプレゼンで非常に有意義だった。Jリーグで使用している高価な映像編集ソフトを用いて作成されている方もいたが、PCにプレインストールされているプレゼンテーションソフトを用いても十分説得力のある内容を作成することができると思う。

2. 講義

・チームビルディング（福富信也氏） ・ Emotion Work Shop ・ ナショナルコーチングスタッフ（U-16 日本代表コーチ 大畑開氏） ・ チームマネジメント ・ セットプレー ・ フィジカルコンディショニング（GPS 装着） ・ ゲーム分析 ・ GP 講義 ・ コーチング ・ プランニング

3. 試験

- ①口頭試験：短い映像を見て、攻撃 or 守備の現象（改善点）について答える
- ②筆記試験：記述形式（3問）

■学びと課題

ア) 本コースまでの準備

B級6トピックを理解することはA級7トピック理解に大いに役立つ。なぜなら、エリアやキーファクターが重なるからである。また、指導実践の場数を踏むことも大切である。私は静岡県トライアルや東海トライアルに向けて、様々な方（石井知幸氏、武田直隆氏、鈴木啓史氏、古賀琢磨氏）やチーム（静岡産業大学、浜松南高校、浜松東高校、浜松工業高校、ジュビロ磐田）に協力を得て指導実践を見て頂いて、トピック理解を深めることができた。それが本コースでもかなり生きた。

イ) 本コースでの取り組み①

やはり指導実践が「全て」であると感じる。合否に直結するだけでなく、指導者としての腕の見せ所だからである。私が指導実践において重要だと感じたポイントは以下に示す通りである。

- ・ 7トピックのプレーモデル、ポジション（GK/SB/CB/SH/VO/FW）ごとのタスクを明確にしておいて、コーチングストーリーを組み立てる
- ・ 7トピックの「4局面の絵」を明確にもっておく（例：「リトリートした守備に対する攻撃」において、攻撃→守備の切り替え時にどのような戦術行動を取るのか？）
- ・ 選手のプレー時間を確保する（説明が長いと選手が気持ち良くプレーできない）
- ・ 提示（フリーズ）は、短く、端的に、タイムリーに行う（追試になった方の多くは、説明が長く、タイムリーなフリーズではなかった or 具体的な提示が無かった）
- ・ フリーズをした後、そのプレーが再び登場した時にジャッジする（褒める）
- ・ 改善側だけでなく、非改善側への働きかけをする。非改善側の可変（例：4バック→3バック）への対応についても引き出しを持っておく。
- ・ 自分のプレーモデルを押し付けすぎると選手の「納得感」が薄れ、活気のあるトレーニングではなくなる。目の前の選手のプレーを見ながら、失敗した時まさにタイムリーなフリーズをして、「やってほしいプレー」や「やってほしくないプレー」を提示する

ウ) 本コースでの取り組み②

指導者同士のつながりも今後の大きな財産である。指導案を見せ合ったり、同トピック実践者でディスカッションしたり、プレーモデルについて熱く議論したりする時間は、サッカー理解を深め、プレーモデルを研ぎ澄ませることができた。他の何にも代え難い貴重な時間だった。

■提言

サッカーの本質は変わらないが、トップトップの世界ではサッカーは変化し続けている。例えば、システムの可変である。本コースでは、選手が自らの判断でシステムを可変することが多くあった（例：ビルドアップ時にCBの間にVOが1枚下りる）。指導実践の際には、可変への対応力も求められていると感じた。

A 級指導者養成講習会 レポート

報告者：太田 真嗣（所属：藤枝東 FC）

●概要

第5コース（関西コース） 会場：J-Green 堺

- ・前期5月13日～5月17日
- ・中期7月1日～7月5日
- ・後期10月21日～10月26日
- ・受講生24名 補助学生：びわこ成蹊スポーツ大学
- ・チューター：石井知幸 大畑開 三輪由衣

【養成目標】

前期講義の冒頭に養成目標の提示がありました。

<監督として>

アマチュアトップレベルのチーム及び選手に質の高い指導ができる人材を養成すると同時に地域・都道府県の指導者のリーダーとなる人材を養成する。

その為に、

- ① ゲーム指導
 - ② 分析
 - ③ プランニング
 - ④ トレーニング&コーチング
 - ⑤ チームと選手の育成
 - ⑥ チームマネジメント
 - ⑦ サッカーに関わる知識
- これらの習得を目標に学習が行われました。

●講義

【前期】

- ・プレーモデル
- ・GP 指導法（GP 指導の考え方、監督が考える GP 像について、GP に何を求めるか）
- ・分析（プレーの原則）
- ・プランニング、コーチング
- ・チーム戦術（トピックの理解・明確なプレーモデルを持つ。プレーの原則）

【中期】

- ・フィジカルコンディショニング
- ・プレゼン実習（指導実践テーマから自分で選択し映像を用いてプレゼン。約10分）
- ・分析（ゲーム）
- ・チームマネジメント
- ・セットプレー
- ・チーム戦術（プレーモデルのうっし込み 個人・ユニット・チーム。プレー原則）

【後期】

- ・チームビルディング
- ・ナショナルコーチングスタッフ講義
- ・エモーションワークショップ
- ・グループワーク
- ・チーム戦術（プレーモデルのうっし込み 個人・ユニット・チーム。プレー原則、一人一人に役割を与える）
- ・口頭試験（30秒の映像を見て課題を抽出→改善方法及び TR 方法の提示）
- ・筆記試験
- ・実技試験の振り返り

●間の学習

- ・医学、栄養、心理、社会科学の講義を各90分受講しレポートを提出
- ・A 級以上のライセンス保持者に指導実践を2回見てもらいコメントとサインをもらう
- ・全ての指導実践のプランニングと実践（Logbook への記録）

・試合分析

●実技テーマ

1. 高い位置からの守備の改善
2. ビルドアップの改善
3. 中盤でボールを奪う守備の改善
4. 中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善
5. リトリートした守備の改善
6. リトリートした守備に対する攻撃の改善
7. カウンターアタックの改善

●指導実践

【前期】

・TR1+TR2 25分 ディスカッション15分 監督・コーチ・GP コーチとして指導実践

【中期】

・TR1+TR2+GAME 30分 ディスカッション15分 監督・コーチ・GP コーチとして指導実践

【後期】

・TR2+GAME 20分 監督のみ

●学び

まずは、開校式の際にチューターから「全員でつくる講習会」「オープンマインド」という話があった中でまさにその通りの講習会であったと感じています。指導実践の振り返りや講義内でのグループワークでも全ての参加者が積極的に発言し、一人一人の探究心・向上心は相当高く意識の高い指導者が集まる場所であると改めて感じました。

A級ジェネラル講習会では、チーム戦術として自分自身のプレーモデル・コンセプトを個人・ユニット・チームに対しどのように落とし込むかを求められ、そこには明確な狙いや考えを持つことが重要視されます。

私が現在指導している3種年代では育成的な意味合いが強く、気付きを与えること、また個性・伸び代を大切にするといった指導を心がけていますが、この講習会では、自らのプレーモデルを意図的に引き出す戦術行動を求められ個人というよりは監督としてのチーム戦術や解決を重要視されます。前期・中期は一人で実践を行うのではなく、実技テーマを監督役（改善側）・コーチ役（非改善側）・GP コーチ役として3人組で回す為、非改善側をコントロールしながらシチュエーションをつくり出すことが可能ですが、後期は監督のみでテーマ実践を行うことから改善側及び非改善側のコントロールを行う必要があります。

テーマ理解（攻撃・守備の裏テーマ、プレーエリア、4局面 等）が求められる中で、どれだけ簡潔に選手に伝えられるか言葉の選び方やタイミングが重要になってくると感じました。

最後に、他の指導者が行う指導実践からの学びは大きく「プレーモデル」「言葉選び」に関してはそれぞれに個性があり、受講生の中にはA代表経験者や、女子W杯優勝メンバー、海外でプレーしていた選手等もいました。様々な指導者と共に受講できたことは私自身の今後の指導に大きく影響されるものとなりました。

●提言

- ・フィールドだけでなくGPとの関わりを持った指導にあたること。
- ・選手役でプレーすることに意味があり、しっかりとしたコンディショニング調整を行っておくこと。
- ・改善側だけでなく非改善側へのアプローチを日常的に行っておくこと。

以上

B級指導者養成講習会 レポート

報告者： 田野雅大

●概要

JFA コース（東海）では23名の受講者と2名のチューターで行った。前・中期4泊、後期2泊静岡県御殿市の時之栖グラウンドで講習会を実施した。

●内容

・講義

○前期

プレーの原則、プランニング、コミュニケーションスキル、フィジカル、サッカーの基本技術、コーチング、GK、

○中期

スポーツ倫理、技術・戦術的トレンド、ゲーム・プレーの分析、審判、セットプレー、チームマネジメント

○後期

特になし

・実技

○前期

ゲーム、実技、フィジカル、実践指導①、②

○中期

セットプレー、コース内課題、指導実践③、④

○後期

指導実践⑤

●学びと課題

◎学び

多くの指導者の方と会話し、自分のサッカー観以外の考え方に触れることができ、指導者としての考え方を深めることができた。一番学んだことは、指導者は練習の基準を提示して、できているかどうかジャッジする。できていれば褒める。できていない場合は基準を達成するためにキーファクターとなるポイントを示すことが大切だと感じた。声と大きさ、トーンに加え、自らがデモンストレーションすることで選手たちは基準がより明確になってプレーしやすいと考えた。

◎課題

FPだけではなく、GPやフィジカル、審判などの知識を深めることをより取り組んでいきたいと感じました。特に、GPに関しては今回の学びであり、自チームに落とし込むことができました。ただ、基本的なことなので、深い学びができるとより全体の学びも深まるのかなと考えました。

●提言

多くの指導者がいて、最初は物怖じをしてしまうとは思いますが、オープンマインドで多くの人と自ら会話することができるとても充実した講習会になると思います。指導者の中にも、熱量の差は大きいと感じました。何事にも真面目に取り組んで積極的に会話することでサッカー仲間が増えると思うので、頑張ってくださいたいです。

B級指導者養成講習会 レポート

報告者：北川慶（静岡学園高校サッカー部）

●概要

2024年度 JFA B級コーチ養成講習会 第2コース(東海)

期間 前期 : 2024年6月4日～6月11日
中期 : 2024年8月20日～8月27日
後期 : 2024年11月12日～11月19日

会場 時之栖スポーツセンター

●内容

・講義

①座学

サッカーの基本戦術の理解、プレー分析、GPへの理解、コミュニケーション能力向上
ハラスメントの理解、コーチング技術、TRのプランニング、戦術のトレンドなど

②間の学習

Eラーニング(スポーツ医学、スポーツ社会学、スポーツ心理学、トレーニング科学)
試合分析

Logbookの作成

③試験

実技試験(指導実践)、口頭試験、筆記試験

●所感

B級ライセンスの講習会に参加し、講義や指導実践などから多くの学びがあった。最大の学びは、私よりはるかに経験値の高い指導者がサッカーというスポーツに対し、真摯に向き合い指導者として成長をしようとする姿を共に生活しながら間近に見ることができたということである。講義の冒頭にあった学ぶことをやめたら教えることをやめないといけないという言葉が刺さりました。

また指導実践では実践後のチューターからのアドバイスで、分かっているがあえて踏み込まないのと、分からず踏み込んでないのでは大きく違うという話がありました。指導の場というのはある意味、取捨選択の連続だと思うのでその中で正しい判断ができるようにちゃんと準備することが大事なんだと再認識することができました。

普段は静岡学園サッカー部という独自のスタイルを信念としたチームで指導をしているが、いわゆるノーマルな考えのサッカーに触れることで、よりサッカーへの理解も深まり、自チームでの指導に役立てることができると感じた。サッカーというスポーツは見方や捉え方によって指導哲学が決まる。多くのサッカー観に触れ、より自身のサッカー観、指導哲学をブラッシュアップさせることができる素晴らしい学びの機会になりました。

今回の講習会において指導をしてくださったチューターの加藤さん、金野さん、大橋さん、また同期の皆さん、補助学生の3名方、トライアルからアドバイスなどしてくださった県のサッカー協会の方々など、本当にありがとうございました。

最後に一つ提言としまして、指導実践において肉体的な負荷が明らかにオーバーしていて指導実践の質を担保できていないので、受講料をあげても近隣の学生の協力などを得て行うべきだと感じました。特に夏場の指導実践は命の危険性さえあると感じました。B級講習会のメインはやはり指導実践の質の向上を図る部分が大きいと思うので、誠に恐縮ですがご検討をお願いします。